

札幌市立屯田小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.tonden-e.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 研究目標・学校の実態・地域性等

研究目標

四季の変化に気付き、身の回りの自然や身近にあるものに働きかけて、楽しく遊ぶことができる。
具体的には、雪遊びを子どもたちが自ら考えて工夫しながら遊べることを目指している。

学校の実態

冬季間も、外に出て雪遊びをする子が多い。グラウンドでのスキー学習の後、スキー山を使って尻すべりやチューブすべりなどの活動がさかんである。

地域性

冬季の保育園との交流が計画的・継続的に行なわれている。親父の会主催（PTA後援）の「アイスクャンドルを灯す会」には、親子で100名ほどの参加がある。地域の行事である屯田雪まつりに参加する子が大勢いる。

2. 実践単元名・題材名

2年生 生活科「ゆきとあそぼう」（9時間扱い）

3. 単元・題材の目標

- 自分と身近な冬の自然に関心をもち、自分との雪との関わりや冬の遊び方について考え、適切に行動できるようにする。
(生活への関心・意欲・態度)
- 冬の自然に関わる活動で、楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどを言葉や絵などにより表現できるようにする。
(生活や体験についての思考・表現)
- 自分と自然との関わりに関心をもち、雪に親しんだり、自分たちの遊びや生活を工夫したりすることができる。
(身近な環境や自分についての気付き)

4. 取組の様子

① ふゆとわたし

- ・冬にどんな遊びができるか計画した。
- ・グループごとに、どんな冬の遊びができるか話合いをした。



② ふゆと遊ぼう

- ・自分たちで考えた雪遊びをした。
- ・フェスティバルの計画を考えた。
- ・みかんを雪に埋め、宝探しゲームをしたり、チューブすべりをするなど、様々な遊びをした。



③ アイスキャンドル作り

- ・フェスティバルに向けアイスキャンドルを作成した。
- ・アイスキャンドルを凍らせる前に、絵の具で色を付けてから凍らせた。



5. 研究のまとめ

2年生の「ゆきと遊ぼう」の単元を通して、子どもたちが、自分たちで冬の遊びを考えることで、冬の屋外での活動に関心が高まり、アイデアがどんどん出てきて、様々な遊びを考えることができた。実際に雪に触れ、雪を生かして活動することを通して、「冬ってこんなに楽しい」ということが子どもたち一人一人に実感された学習であった。札幌の雪国としてのよさを今後とも学校中に広めていきたい。